

指導資料

道徳 第33号

鹿児島県総合教育センター
令和2年4月発行

対象 小学校 中学校
校種 義務教育学校
特別支援学校

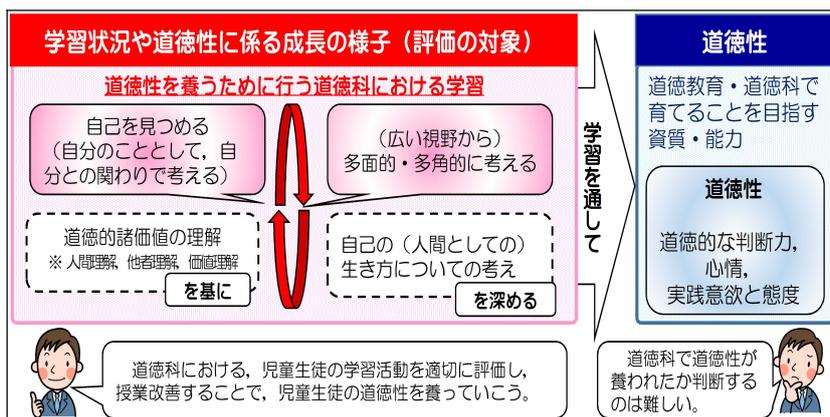


「考え、議論する道徳」を評価につなげる

道徳科における評価として「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を把握することが明示された。個々の児童生徒の成長を促し、授業改善につなげる評価の進め方を、「考え、議論する道徳」の授業構想と関連付けて説明する。

1 基本的な考え方

道徳科の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を養うことである。道徳性は、内面的資質であるため、道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。そこで、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や道徳性に係る成長の様子を適切に把握し評価する。つまり、道徳科の目標に示されている、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」といった学習活動における児童生徒の具体的な姿を見取ることが求められている（図1）。



【図1 道徳性を養う学習活動】

「小学校（中学校）学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」には、児童生徒の学習状況を見取る際の視点と具体的な姿の例が示されている（表1）。

「小学校（中学校）学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」には、児童生徒の学習状況を見取る際の視点と具体的な姿の例が示されている（表1）。

【表1 学習活動に着目した評価の視点と具体的な姿の例】

視点	道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。	児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。
具体的な姿の例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。 ○ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。 ○ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。 ○ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。 ○ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。 ○ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を（広い視野から）多面的・多角的に考えようとしている。

他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒一人一人の学習状況の良い点や成長を積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うことが求められます。



2 評価の具体的な推進例

以下の主題，教材において，ねらいを達成するために中心となる展開場面の授業構想と評価の進め方について述べる。

○ 主題名	： 自分と異なる意見や立場も大切に B（相互理解，寛容）
○ 教材名	： 「ブランコ乗りとピエロ」（出典：文部科学省『私たちの道徳』小学校5・6年）
<p>サーカスのチームリーダーであるピエロと団員は，自己中心的なブランコ乗りのサムに対して腹を立てていた。大王の見物の日も，サムは持ち時間を守らなかった。しかし，ピエロは，演技を終えて力を出し切ってぐったりしているサムを見て，誰よりもサーカスに真剣に取り組んでいることに気づき，サムがサーカス団の一員であることを認め，諭す。二人は朝まで語り合い，最終日まで大盛況となった。</p>	

(1) 指導のねらいと評価の視点の設定

まずは，「指導の意図」を明確にし（詳細は，当センター指導資料道徳32号参照），「ねらい」（どのような学習活動を通して，道徳性を育成するのか）を設定する。次に，評価の対象は児童生徒の学習状況なので，「ねらい」にある学習活動に対する評価の視点を設定する。

 <p>【指導の意図】 広い心で自分とは異なる意見や立場を理解することで，よりよいものが生まれることに気付かせたい。</p>	
<p>【ねらい】 ピエロのサムに対する心情の変化について考え（学習活動①），自分と異なる考えや立場を理解することの意義やよさを交流する活動（学習活動②）を通して，広い心で相手の意見や立場を尊重しようとする態度を育てる（道徳性の様相）。</p>	
<p>【評価の視点】 ピエロの心情について，自分ならどうするか考えたり，相手の考えや立場を理解することのよさを様々な視点から表現したりしていたか。</p>	

(2) 学習活動の構想

「ねらい」の学習活動を構想する際，図1の「自己を見つめ」，「（広い視野から）多面的・多角的に」考える学習活動と，「道徳的諸価値の理解〔人間理解，他者理解，価値理解〕」，「自己の（人間としての）生き方についての考え」を相互に関連付ける必要がある。

ピエロのサムに対する心情の変化について考える（学習活動①）		自分と異なる考えや立場を理解することの意義やよさを交流する（学習活動②）
<p>サムを許すことのできないピエロの心の弱さを自分との関わりで考えさせたい。 自己を見つめる ⇒ 人間理解</p> 	<p>ピエロがサムを広い心で受け入れた理由を様々な視点から考えさせたい。 多面的・多角的 ⇒ 他者理解</p> 	<p>広い心で相手を理解し，受け入れることの大切さを様々な視点から考えさせたい。 多面的・多角的 ⇒ 価値理解</p> 
<ul style="list-style-type: none"> 時間を守らないなんて，自分勝手に許せない。 自分だけ目立とうとして。 自分も友達のことを許せなかったことがあったなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> サーカス団のために頑張っていることに気付いたから。 サムの気持ちを理解していなかったことに気付いたから。 自分も目立とうとしていたことに気付いたから。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を分かろうとすることが大切なんだ。 理解し合うことで，よりよいものが生まれる。 広い心をもてば，相手も理解してくれる。 

(3) 指導方法の工夫と期待される児童の姿

<p>＜指導方法の工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 教材提示（紙芝居，ペープサート，BGM，大型提示装置など） イ 発問（必然性，切実感，自由な思考，多面的・多角的な発問など） ウ 話し合い（座席の配置，討議形式，ペア・グループなど） エ 書く活動（ワークシート，ノートなど） オ 表現活動（役割演技，動作化，身のこなし，表情など） カ 板書（対比的，構造的な板書など） キ 説話（生活問題，新聞，雑誌，テレビ，ことわざや格言など） 		<p>の期待される児童生徒の具体的な姿の想定</p>
---	---	----------------------------

各学習活動のねらいを達成するための指導方法を工夫し，期待される児童生徒の具体的な姿を想定しておくことで，指導と評価の一体化が可能となります。



授業構想 (例)

過 程	学習活動と指導方法の工夫 [] はねらいとする道徳的諸価値の理解	期待される児童生徒の姿 < > は見取りの方法 図「自己を見つめる姿」、㊸「多面的・多角的に考える姿」
導 入	1 事前アンケートの結果を基に本時の主題について考える。 2 本時のめあてを立てる。 自分と異なる考えの人とどのように向き合えばよいだろう。	
展 開 前 段	3 教材を読んで、ピエロの気持ちを中心に考える。 (1) 持ち時間を越えても演技しているサムに対するピエロの気持ちを考える。[人間理解] 【指導方法の工夫】 ピエロの怒りを全員に心情メーターで表示させ (表現活動)、その時の心情を発表させる。また、自分にも同じようなことがなかったか問い掛ける (発問)。  (2) (中心発問) どうして、サムのことを許そうという気持ちになったのかを考える。[他者理解] 【指導方法の工夫】 許そうと考えた理由を、ワークシートに書かせた後 (書く活動)、席を離れて自由に意見を交流する活動を設定する (話し合い)。さらに、交流の中で、自分の考え方、感じ方と異なる友達の意見をワークシートに記入させ (書く活動)、新たな気づきを発表する場を設定する。  (3) 二人は、朝までどのようなことを語り合ったか考える。[価値理解] 【指導方法の工夫】 ピエロとサムの立場で役割演技を行わせ (表現活動)、演じた感想や演じた様子を見た感想を交流させる。 	<発言> ㊸ ピエロの心情に共感して怒りの理由を発表している。  <行動観察> ㊸ ピエロの怒りに共感して、心情メーターを操作している。 ㊹ 友達の発表を聞いて、心情メーターの表示を変えている。
展 開 後 段	4 本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。 【指導方法の工夫】 以下のような内容を記入させる (書く活動)。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに知ったことや自分の考えが変わったこと ・ これまでを振り返って感じたこと ・ これからの生活に生かしたいこと ・ 今日の授業で頑張ったこと 	<ワークシート> ㊸ これまでを振り返って感じたことやこれからの生活に生かしたいことが書かれている。 ㊹ 新たに知ったことや自分の考えが変わったことが書かれている。
終 末	5 教師の説話を聞く。	

(4) 記録の蓄積

授業構想を基に、ワークシートの記述、発言や行動を照らし合わせて記録を蓄積する。発言や行動は、板書の画像、録音、録画、ティーム・ティーチングの協力者からの評価などの工夫により、児童生徒の姿をよりの確に把握することができる。

3 評価の記述（演習含む。）

児童生徒の学習状況を大きくくりなまとまりで評価し、記述する。そのため、蓄積した学習状況のよさを一覧表にまとめる。その際、道徳科における学習活動の、どの姿が表出したのか分析することで、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握できる（表2）。

【表2 児童Aの一学期の学習状況】

期日	内容項目 「教材名」	発言・記述・行動等 ＜ ＞は、表出された学習状況の分析
4/19	A 正直，誠実 「 」	(行動) 友達の発言をうなずきながら聞いていた。 (発言) 「自分の気持ちに嘘をつかなければ，後悔しない。」 ＜ 自己を見つめ 多面的・多角的 道徳的諸価値の理解 自己の生き方 ＞
5/10	C 家族愛， 家庭生活の充実 「 」	(発言) 「私も，自分のことだけ考えて，お父さんに文句を言ったことがある。」 (記述) 「家族のために，自分ができていることを考えて行動したい。」 ＜ 自己を見つめ 多面的・多角的 道徳的諸価値の理解 自己の生き方 ＞
5/31	B 親切，思いやり 「 」	(行動) 主人公の立場になって役割演技していた。 (記述) 「恥ずかしくて親切にできないことがあった。勇気をもって行動したい。」 ＜ 自己を見つめ 多面的・多角的 道徳的諸価値の理解 自己の生き方 ＞
6/14	B 相互理解， 寛容 「 」	(行動) 友達の意見を聞いて，心情メーターの怒りの度合いを増やしている。 (記述) 「意地を張らずに広い心で相手の考えを聞こうと思う。」 ＜ 自己を見つめ 多面的・多角的 道徳的諸価値の理解 自己の生き方 ＞
7/5	D 自然愛護 「 」	(行動) 席を離れての意見交換では，異なる意見の友達に積極的に話し掛けていた。 (発言) 「〇〇さんの話を聞いて，人間も自然の中で生かされていると思った。」 ＜ 自己を見つめ 多面的・多角的 道徳的諸価値の理解 自己の生き方 ＞

例えば、表2の中で、顕著な学習状況に着目した場合、読み物教材の登場人物の心情を自分の経験と重ね合わせて考え、これからの自己の生き方について考えを深めていることを記述することが考えられる。また、学習状況を時系列に並べて、進歩の状況や成長の様子に着目した場合、他者の意見をうなずきながら聞くといった学習状況から相手の感じ方・考え方を認めながら、自分の考えを深め、発言していることに着目して記述することも考えられる。

(演習) 表2の学習状況について、以下の2つの場合で評価を記述してみましょう。

- ① これまでの学習状況の中で、顕著なところを認め、励ます場合

- ② 時系列に並べて、進歩の状況や成長の様子を認め、励ます場合

児童Aの一学期の評価として、①、②の場合で、以下のような記述が考えられる。

① 登場人物の心情を自分の経験と重ねて考え、実践したいことにつなげていました。特に「 」の学習では、勇気をもって親切にしたいと記述していました。

② 友達の意見を取り入れながら、発言できるようになりました。特に「 」の学習では、積極的に交流し、自然が人間の生活を豊かにすることに気付いていました。

本稿では、本時のねらいに迫るための指導方法を工夫すれば、児童生徒のよりよい学習状況につながることを述べてきた。道徳科の指導と評価を通じて、授業改善に努

めるとともに、児童生徒理解を一層深める機会としてほしい。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成29年
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成29年
- 赤堀博行『道徳の評価で大切なこと』平成30年度

(教科教育研修課 加藤 淳一)